

参加者からの所感をひと言

●旅の目的:その1

「佐賀熱気球世界選手権大会」～天空に舞うバルーンを観る

・バルーン。本物が飛ぶ風景を見たかった。悪天候、とても残念でした。 **吉田英夫**

・バルーン世界選手権大会は、ふるさと佐賀の地で開催される好条件(風・平野・交通の便)が揃っており自慢できる。秀島佐賀市長はじめ、関係者の熱意と努力、行動力に感謝している。関西圏に住む私たちはもっとふるさと佐賀の良さ、知名度の向上、情報発信に尽力すべきと思う。 **吉村照治**

・機会があれば再度訪問して実物が空に舞い上がっている様子を観たいです。 **原川寿子**

・すごく楽しみにしていましたが、天候には勝てずに残念でした。それでもバルーンミュージアムで大会の歴史を学べ、会場も見学でき良かったです。 **重吉咲子**

・バルーンの凄さを知りませんでした。現地を見て分かりました。JRのバルーン駅ができるのですから死ぬまでにバルーンの上になっている姿を是非見たいものだと思っています。 **原田友康**

・晴天でも風の影響を受けることを実感。11月3日母の見舞いを終え、午後バルーン会場へ。午前中は競技も実施され、約13万人の見物人がいたようですが、午後はなかなか始まらず、3時からの競技開始予定になっても「風待ち」の状況。夜7時前の新幹線に遅れては！と後ろ髪ひかれる思いで駅に向かった4時過ぎ、ようやく10数機のバルーンが上がりました。やはり嬉しかったです。ちなみに11月5、6日、会場では見事な選手権が開催され、会場に行っていた長女から送られた写真とYou Tubeのライブ放映で楽しみました。 **橘 道子**

・次回に是非観たいものです。 **中野玲子**



・競技飛行を観たかった。でも嘉瀬川河川敷に立って、ここが主会場なんだと知っただけでもとても有意義だった。 **田中 實**

・11月1日は気球が飛ばず残念でしたが、2日は爆弾予告騒ぎで中止。3日の午後、ようやく飛びました。佐賀市内の姉の家で気球が上がってくるのを観ました。何十機も飛んできて感動そのもの。テレビ中継もやっていたので二重の楽しみでした。降りていくのも観られました。 **辻井寄子**

●旅の目的:その2

「有田焼創業400年記念」～400年の歴史を偲ぶ

・朝鮮から職人を多数呼び寄せ、新産業として成功させた着眼点等、先人の偉大さを初めて知りました。良質の磁器原料が存在した佐賀県は幸運に恵まれています。 **吉田英夫**

・2016年は、まさに有田のイヤーだった。日本磁器誕生・有田焼創業400年は実に輝いている。その歴史・文化・伝統の力を随所で味あうことができた。世界的作品を制作する匠の技術レベルは最高で、今なお逞しく進化している。ふるさと有田焼の魅力は誇りであり誉れである。分かりやすく解説頂いた有田町民族資料館の尾崎館長に衷心より御礼申し上げる。 **吉村照治**



・歴史の古さに感激し、世界に誇る有田焼の立派さ見事さに感動しました。 **原川寿子**

・有田焼の奥深い歴史を学べました。 **重吉咲子**

株式会社 **日本電機研究所**

代表取締役会長兼社長 **福地裕文**

<創業者 福地武史:大町町出身>

milken 制御システムの専門メーカー

551-0031 大阪市大正区泉尾7-1-1
TEL06-6552-1471/FAX06-6554-0847